



第31回上田八木・金融政策サーベイ(2019年10月)の結果について

～全回答者(165先)の93%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方、前回対比では「緩和」の見方が減少。金利予想では、「低下」の見方が前回と比較して減少した。

2019年10月29日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(165先)の93%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。なお、前回対比では「緩和」の見方が減少(15%→7%)。
- 3か月先の金利予想に関しては、ON金利については前回対比変化なし。2年・10年利付国債で「低下」の見方が前回対比減少。
- 「出口開始時期」に関しては、前回同様「3年以上」と回答する先が増加、調査開始以来初めて6割を超えた。

【調査の概要】

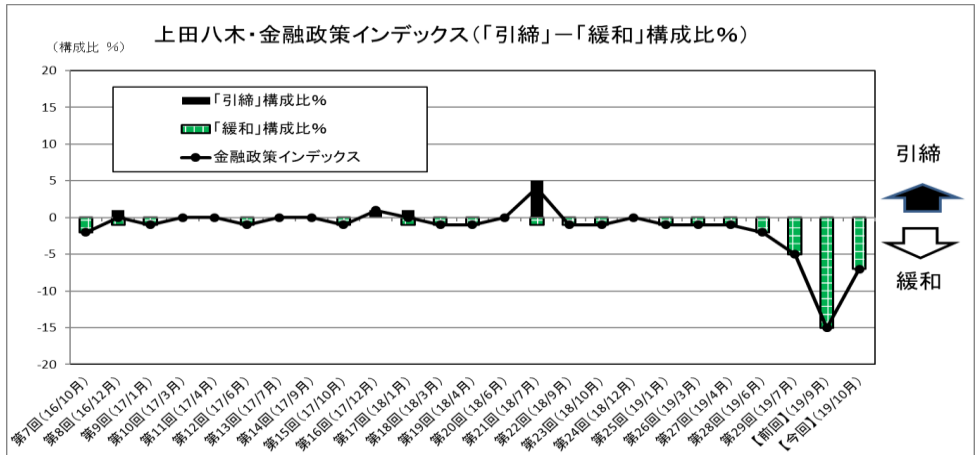
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(185先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2019年10月24日～28日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.2% (回答者数165先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(10月30日～10月31日)における決定について

回答者の93%が「不変」の見方。「緩和」の見方は7%。「引締」は0%。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲7」(前回は▲15)であった。

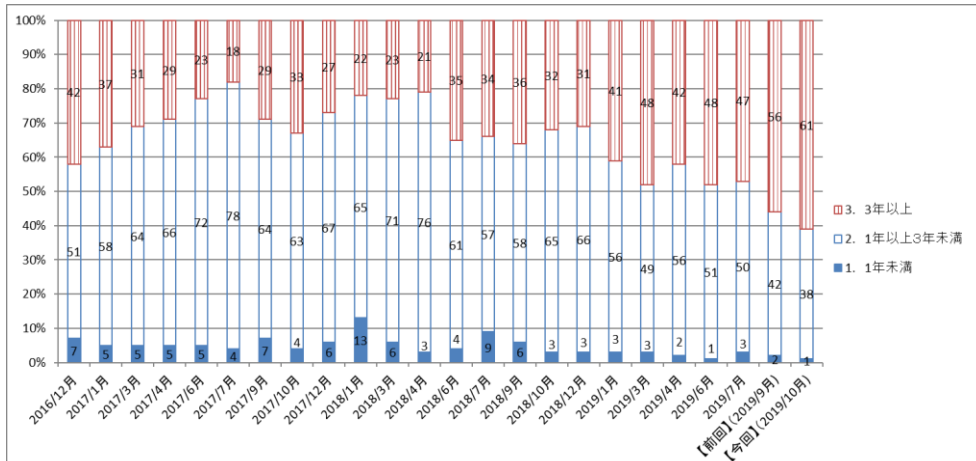


(ご参考)

【追加質問:Q5】

現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

1年以上3年未満と回答する先は38%(前回42%)、3年以上と回答する先も61%(前回56%)

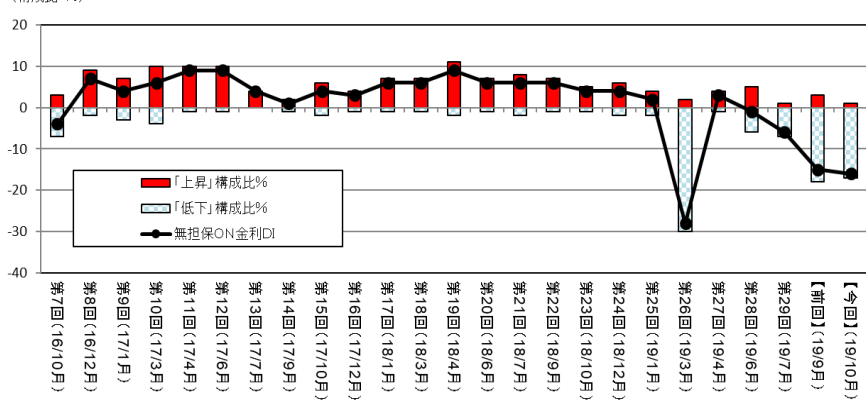


(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の82%が「不変」と予想。17%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は1%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲2%ポイント(前回3%→今回1%)。「低下」とみる先は▲1%ポイント(前回18%→今回17%)。「不変」とみる先は+3%ポイント(前回79%→今回82%)。

3か月先の無担保コールON金利(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

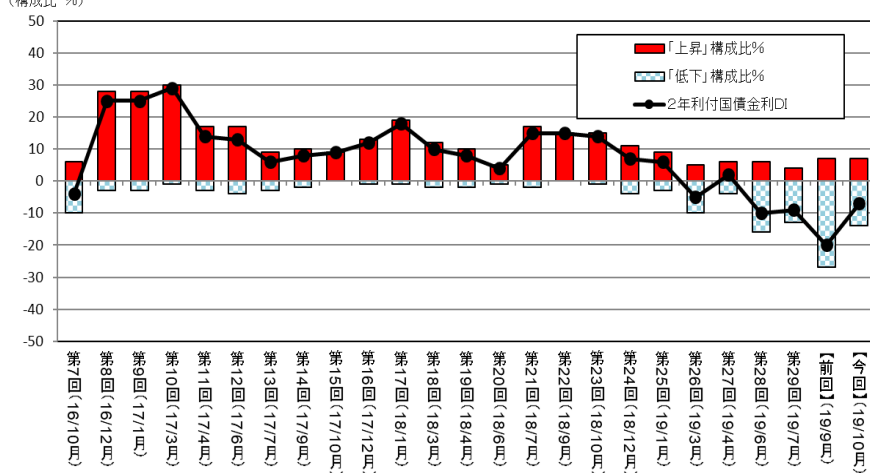
「低下」を予想する回答者14%。「上昇」を予想した先は7%、「不変」を予想した先は79%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先+0%ポイント(前回7%→今回7%)

「低下」とみる先は▲13%ポイント(前回27%→今回14%)

「不変」とみる先は+13%ポイント(前回66%→今回79%)

3か月先の「2年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

「低下」を予想する回答者14%。「上昇」を予想した先は1%、「不変」を予想した先は75%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+2%ポイント(前回9%→今回1%)

「低下」とみる先は▲18%ポイント(前回32%→今回14%)

「不変」とみる先は+16%ポイント(前回59%→今回75%)

3か月先の「10年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)

